



9月の園だより

令和 7 年 9 月 1 日

目黒区立中町保育園 園長

暦の上では晩夏（ばんか）といわれるこの時期、暑かった日々を振り返るにはまだ早く、都会では蝉の声を耳にすることも少なくなっているように感じます。今年の夏も0・1・2歳児クラスは水遊び、3・4・5歳児クラスはプール遊びを存分に楽しみました。水に触れる0歳児に、保育士が「冷たいね」「気持ちいいね」等と声をかけていました。保育士の言葉と水の感触を重ね合わせることで『冷たい』や『気持ちいい』という感覚を知り、言葉と実際の状態が結び付くと、やがてそれは発語となって現れます。2歳児がタライの中に水遊び玩具を落とすと、自分の顔に水しぶきが跳ね返ってきました。その度に声を上げて大はしゃぎし、もう一度“ドボン”と落とします。自分が起こした行動が何らかの形で返ってくる面白さや喜びを感じながら“もっと もっと”と繰り返し楽しむことで、形も色も無い『水』を頭と体で知っていく子どもたちです。水遊び・プール遊びと表現するように、遊びを通して好奇心や探求心を満たしながら獲得してきたひと夏の力を、子どもたちがこれからの活動の中でどの様に発揮するか、今から楽しみです。

「園庭で遊びたい」という子どもたちからの相談を、暑さを理由に断った日がありました。命を守ることで優先されるものは無いけれど、子どもたちの願いを叶えたい思いはいつだって持っています。毎日、用務職員が掃除や整備、危険個所の確認をすることで園庭遊びの再開に備えています。賑やかな園庭がいつ戻ってきてもいいように、いろいろな準備はすでに整っています。

引き渡し訓練（全園児）

行事予定

中旬 身体計測 避難訓練



おや おや？

お・や・さ・い を
覗いてみれば…

たんぽぽ組(1歳児)



5月から水やりをして育ててきたミディトマトがたくさん実り、収穫して食べることにしました。子どもたちは「あまいねえ」「もっと」と喜んで食べています。育てている最中からトマトの実に興味を抱いて触れたり、顔を近付けて眺めたりしていたので、収穫前に落ちてしまい、食べることが出来ない実と一緒に観察してみることにしました。保育士がミディトマトを切って見せると、身を乗り出すようにして覗き込んでいます。交代で観察し、実にも触れながら「タネ あるね」と呟いたり、とても良い匂いに誘われて思わず口まで運びそうになったりする子もいました。小さなトマト一つも子どもたちは五感で感じ、保育士や友達と一緒に楽しみながら食への興味・関心を深めています。

ちゅうりっぷ組(2歳児)



「みんなが育てていて、緑色で、中に種が入っている野菜はなあ〜んだ」と子どもたちに質問してみますが、なかなか『ピーマン』に辿り着きません。「正解はピーマンだよ」と話すと「えっ、ピーマン 種ないよ」と声があがりました。確かに、子どもたちはピーマンの種を見たことがなかったのです。そこで、収穫したピーマンの種取りをすることにしました。半分に切ったピーマンを目にして「種だ！」と喜び、集中力を持続させながら小さな種を取り除いていました。そのピーマンを給食時にカレー醤油味で炒めて食べると「大きくなったでしょ」と言いながら、日頃親しんでいる絵本『グリーンマントのピーマンマン』の主人公になりきって、力強くパンチの仕草をしていました。

ほし組（3歳児）

幼児クラスに進級し、初めてのプール活動でした。緊張しながらも大きなプールに入った時は嬉しそうで、最初は自分の体に優しく水をかけ、プール内を一周、そ〜と歩いていました。慣れてくると「冷たくて気持ちいい」「楽しい」と全身で水の感触を楽しんでいます。「なりたい動物になって、プールの中を歩いてみよう」と声をかけると「かわいいアヒルになる」「私はラッコ」「カニ」とそれぞれが動物になったつもりで水の中を進み、フープのトンネルをくぐっています。活動が進むにつれて顔をつけられるようになる子もいて、自信を持って「見ててね」と披露する姿も増えてきました。宝探しゲームでは、底に沈む玩具を拾うためにしゃがんで手を伸ばします。顔が水面すれすれになっても、たくさんの宝を拾いたい気持ちで思い切って潜ってみたり、水が顔にかかってもめげずに拾ったりしています。一人ひとりが水に慣れていくペースを大切にしながら“やってみたい”“もっとできる”という経験を積み重ねて楽しみました。



つき組（4歳児）

プールの中でグルグル歩き回りながら、みんなで流れるプールを作りました。子どもたちはこの遊びが始まると“来るぞ 来るぞ”とワクワクした表情を見せながら、水の流れが生まれると「せ〜の」と気持ちを合わせ、ワニやラッコ泳ぎで流れに身を任せています。フワッと体が浮く感覚が楽しくて、つき組の大好きな遊びの一つです。その経験の影響か、ワニ泳ぎでプールの端から端まで往復する際も両足を浮かせられるようになり、フープやビート板を使って保育士に引っ張ってもらいながら泳ぐ際も、上手に脱力出来るようになりました。「足がまっすぐ伸びてきれいだね」と周りの子の姿にも注目していて、水に顔をつける友達を見て

「やってみる」と挑戦する子もいます。「あんな風に泳いでみたい」と友達の存在が刺激となり、至る所で意欲的な姿を見せてくれました。

プールを満喫した



夏



おひさま組（5歳児）

「目を開けて、けのびでス〜と泳ぎたい」「今よりもっと泳げるようになりたい」等、一人ひとりがプールに向けて目標を立てました。始まったばかりの頃は、水に顔をつけたり、潜ったりすることに躊躇いを見せる子もいましたが“自分も出来るようになるんだ”という気持ちで挑戦し続けていました。その姿を見て「頑張れ」と応援する友達や「息をたくさん吸ってから顔を付けるといいよ」とアドバイスする友達がいたことも嬉しい光景でした。ある日、教わったとおり息をたくさん吸い込んで潜ることが出来た子に対して、何人もの友達が「顔をつけられるようになったね」「〇〇くん、潜れるようになってすごいよ」と声をかけると、潜れた子もとても嬉しそうでした。頑張った姿を周りに認めてもらえたことで更に自信が増し、翌日にはフープに向かって泳いでみようとしていました。刺激し合う仲間の存在は大きく、

どの子にとっても頑張る力となっています。プールで得た自信を、その勢いのまま運動会の取り組みへとつなげていきます。

